

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071102133
法人名	有限会社 ケイユーカンパニー
事業所名	グループホーム ソレイユ (ユニット名 1・2)
所在地	福岡市南区老司1丁目11番11号
自己評価作成日	平成26年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院ということもあり、疾病(肺炎や持病の悪化)や急変時の対応は迅速に行っています。主治医による24時間オンコール対応は勿論の事、母体病院との連携による入院加療、長期入院による医療的処置の発生など入居中に起こり得る様々な身体的変化や重度化に対応しています。また、協力病院でもある歯科医院の協力の下、口腔ケア及び嚥下に関するアプローチに力を入れており、口腔内視鏡による嚥下困難な方へのフォローを積極的に実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道路の向い側に母体の病院があり、終末期は利用者・家族の要望で受け入れてもらっている。また、歯科協力医院は口腔ケアや嚥下について、週1回治療と利用者への対応を職員に指導している。流動食の利用者も職員の的確なケアによってむせることなく食している。全体的に肺炎が減少したと喜んでいる。このように医療との密なる連携は利用者・家族の安心につながっている。食事の献立は母体病院の管理栄養士が作成しているが、日曜日は利用者と相談して献立から買い物、調理などすべてを行うよう職員から提案があり、間もなくスタートする予定である。その他にも様々な提案が職員からなされている。施設長及び職員は「利用者に寄り添い、利用者のできることを伸ばす。そして、ここにおいて良かった」と言っていたような事業所を目指しており、今後が期待できるところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一回の全体会議のときに理念についてふれ、理念の共有意識の向上に努めている。	「信頼 敬愛」という理念を念頭に日々の業務を行っている。4月からはユニットごとに話し合い、6カ月を一期として目標を設定し、理念を具体的に日常の業務に活かすように計画している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議時、ご家族・民生委員・町内会長・地域包括支援センターへ理念に基づいた活動内容を報告し、理解と協力をお願いしている。	自治会に加入している。米を購入している近所の米屋は消防訓練に参加している。また、歌や踊りのボランティアを受け入れている。道路の向かい側にある母体病院の文化祭には利用者と一緒に制作した作品を展示している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣中学校の職場体験学習に賛同し、中学生の受け入れを行っている。また、随時介護や福祉についての相談などを受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回開催し、活動実施内容についてや高齢者福祉、認知症に関する行政や自治体の動きなどを踏まえた内容を議題とし、様々な見解や意見を賜っている。またそれらのご意見・ご要望に関しては、検討し改善を行い、サービス向上に努めている。	2ヶ月に1回開催する運営推進会議には利用者も参加している。明るいオレンジのエプロンには職員の名前が刺繍されており、運営推進会議で職員の名前が分からないとの要望により改善したものである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは積極的に連絡を取り、今後の方向性や取り組み事項などを協議している。	生活保護受給者のことで、市の担当職員とは密な連携をとっている。また、包括支援センターからは利用者の紹介やホームの見学を受け入れるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ指針」を掲げ、全職員で共有し、ケアに取り組んでいる。	施設長及び職員は身体拘束はもちろん、言葉や薬による拘束も行わないようにしている。利用者が険しい表情であれば、何故そのような表情をするのか理由等を考え、原因を取り除くようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連の時事などを申し送りやフロアミーティングなどで報告し、虐待防止の啓発と意識向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、実際に活用し、関係者等と密に連携をとって支援を行っている。	以前、成年後見制度を利用していた利用者はいたが、現在の利用者に該当者はいない。施設長は制度の事は理解しているが、職員は日常生活支援事業も含めて利用者や家族に情報提供を行うことはない。	利用者や家族に対して、状況に応じて制度の情報提供がいつでもできる様になるためにも、すべての職員が制度の理解をすることについて今一度、検討する機会を持つことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書・重要事項説明書の説明を十分に行い、署名をいただいている。また、不明な点や質問事項にも理解・納得いただけるよう十分にお答えしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者制にて、ご意見・ご要望を発信しやすい関係及び環境に配慮している。ご家族に関しては、忌憚のないご意見を賜えるよう運営推進会議やご面会の時など積極的に声掛けしている。また、ご意見や不満・要望が発生した場合はその都度対応し、苦情相談窓口や第三者機関への連絡先等も告知している。	家族が来訪した場合は運営に関する意見や要望を聞くようにしている。最近の例では食事のメニューはその日の1日分を表示しているが、前後のメニューも知りたいという要望が家族からあったため、1週間のメニュー表を掲示するようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別での相談や申し送り時、フロアミーティングなどで職員の意見や要望を聞いたり、介護の現場へ訪れて現状を確認し、働きやすい環境作りに努めている。	月1回開催するフロアミーティングでは自由に発言できている。ミーティング時や日常業務の中で出た意見や提案を否定することはない。後日話し合い、実行できることから実施・評価を行い業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員を対象に年2回の自己及び管理者評価を実施。また、契約更新時に個別面接を実施し、待遇面や作業、職場環境についてのヒアリング等を実施している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	労働基準法を順守し、採用応募者すべてと面接を実施。また、各フロアに就業規則を設置し、権利やその責任についてなどを明記している。	施設長は職員の採用時は人柄を重視している。20歳代から60歳代の職員が従事している。職員が初任者研修を受講する場合は事業所が受講料を半額負担したり、介護福祉士資格を取得する場合は取得しやすい環境を整えている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務の中で、人権を尊重するケアの実践に向けて啓発及び助言を行っている。	施設長は外部が行う人権研修を受講して人権尊重に関する認識があり、日々の業務にあたっている。職員は人権教育に関して、伝達研修や外部の研修を受けるまでに至っていない。	日々の業務の中で、人権を尊重するケアに取り組まれているところではあるが、自治体等が行う研修等の活用により、人権に対する認識をあらためて学習する機会を持つことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や外部研修への参加及び施設内研修として協力医療機関や関係施設から講師を招き、職員のスキルアップを図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や関連施設等との慰労会などには積極的に参加するよう促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、ご家族やケアマネージャー、医療機関などのソーシャルワーカーから情報収集し、希望がある場合は、入居するしないに関係なくご本人にお会いし、直接お話を聴いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	多くは電話での対応になるが、できるだけ直接お会いし、時間が許すのであれば、施設見学も兼ねて当施設への来園もしくは、我々が来訪してお話を聴くよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を精査し、支援サービスに関する助言や情報提供を行っている。必要に応じて他の機関や社会資源の紹介を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	勤務フロアを固定し、馴染みの関係を築ける環境にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会議などを通し、様々な場面を共感・共有できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報保護に十分配慮し、古くからの友人・知人の来訪を積極的に促している。また、ご家族や友人のこと、これまでの生活についてなど日常の会話の中で思い出していただけるようにしている。	利用者の昔のお稽古仲間、公民館でのサークル仲間、教え子、友達等々が家族の了解を得て来訪した場合は歓迎し、関係が途切れないよう支援している	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や性別などを考慮し、レクの提案や生活環境の整備に努めている。また、ご利用者間の会話が潤滑に行えるよう、職員が橋渡しをしてよい関係を築く支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への移住や医療機関へ移られても知人としての来訪や面会、またはご家族への連絡にて様子を伺い、継続的な関係維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、その方の思いや希望を理解し、ケアプランの作成に努めている。また、意思疎通が困難な場合は、フェイスシートやご家族から情報収集し、反映させている。	利用開始時に本人や家族から希望や意向を聞いている。その後は日常生活の中で折に触れて本人に聞いたり、表情や態度等から気持ちを読み取ったりしている。時には利用者が持参した品から思いを図ることもあり、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族からご本人のバックグラウンドに関する情報をお聞きし、フェースシートに記入しているが、日々の会話の中からも情報が得られるように努めている。また、お部屋に置く物などはできるだけ今まで使用していたものを持参いただくよう促している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズムやADLの状態を把握し、過剰介護を避け自助能力が発揮できるエンパワメントアプローチに努めている。また、僅かな変化に気付いたら、申し送りノートを用い、職員間での情報共有を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、担当職員が中心となり、ご本人・ご家族の意見や意向をお聞きし、主治医や関係機関からの助言などを鑑み、プランに反映している。	介護計画作成後は特に、職員全員で目配りや気配りをしており、利用者の状態について変化があればその都度情報を共有して現状に即した介護計画へと繋げている。また、介護計画に沿ったケアが提供できているかについて、毎日2回チェックしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録を作成し、日常生活の様子をはじめ、食事・排泄・入浴・バイタルなどを記録し、全職員が把握できるようにしている。また、希望があれば、ご家族がも閲覧できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個人の状況に応じて、介護・福祉・医療における社会資源を活用し、ご家族への理解と協力を得て柔軟な支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの導入を行い、行事やレクなどで来園いただいている。また、警察や消防機関と連携し、地域の防犯や防災に協力すると共に利用者の緊急時にも対応を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関やかかりつけ医の選択に関しては、ご本人やご家族の希望に沿って行っている。また、主治医に関しては、在宅総合診療により24時間オンコールの体制をとっている。	月2回の内科往診があるが、希望すれば他の医療機関への送迎や付添いも行う。口腔ケアにも力を入れており、週1回歯科医院から担当者が来て治療や歯磨き、入れ歯の手入れの指導がある。効果も上がってきており利用者の健康維持に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職員と同じ勤務を行い、情報の収集や共有に努め、介護と医療の橋渡し(主に主治医及び医療機関の看護師との)の役割も担っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院における利用者の身体的・精神的・経済的な負担を十分理解し、ご家族・医師・ソーシャルワーカー・他の機関と連携して早期退院の実現に努めている。そのための日頃の情報交換は常に実施している(母体病院)		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を打ち出し、ご本人やご家族に理解と協力を得られるように努めている。また、個々の状況やその時々意向などに配慮できる柔軟な体制を整えている。	道路を挟んだ向い側に母体の病院があり、重度化した場合は入院できるようになっている。利用者が重度化すると家族等が病院への入院を希望する為、現在のところは看取りをした事例は無い。今後も家族と話し合いながら望まれる支援を行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、迅速に対応できるよう努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルに従い、避難誘導などの訓練を行っている。訓練時にはご家族や地域住民の方々に参加いただき、現状の把握と改善に協力を得ている。また、近隣施設の協力を得て、避難場所を確保している。	消防署へ直通の火災報知設備があり、スプリンクラーも設置している。年2回の防災訓練のうち、1回は消防署と合同で行っている。訓練には民生委員や近隣住民の参加がある。過去の地震の時は近所の高齢者を一時的に受け入れるなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の尊厳を最大限尊重した言葉かけや日常生活の支援を行っている。	利用者の誇りやプライバシーに配慮し、常に尊敬の念を持って接している。何かをする場合には本人、家族の意向を確認しようとしている。入浴時には女性の利用者に対しては、男性の職員が介助してもよいかの確認をしてから支援を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者の希望や意見を傾聴し、それらが伝えやすい馴染みの関係の構築や、言動または行動で察知できるよう日々の状態観察に努めている。また、意思疎通が困難な方は、ご家族からの聞き取りなどで意向を把握し、自己決定に準ずる対応に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の性格や周辺症状などを踏まえ、業務の内容や時間配分については見直しや改善のための検討を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	場面に応じた身だしなみに配慮し、おしゃれを楽しんでいただいている。また、訪問理容を実施しているが、ご本人やご家族の希望で近隣の理髪店や美容院への外出も支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けまでの工程において、個々の残存機能に応じて一緒に調理参できるような検討している。また、その日の担当職員は、利用者と一緒に食事を行っている。	食事の時間を楽しむことができるように、もやしの根切りなどの下準備を職員と一緒にしている。普段は管理栄養士が献立を立てているが、日曜日の献立は職員が利用者と相談して食べたいものを決めていくように考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専属の栄養士と連携し、食事形態や栄養バランス、個人の嗜好や疾病(特に糖尿病等)などに配慮している。また、食事、水分の摂取量は毎食記録に残している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨きや義歯の洗浄を行い、必要に応じて食後や夜間に義歯の保管を行っている。また、毎週の往診と食後の口腔ケア実施を協力医療機関である歯科に依頼し、口腔ケアについての指導や助言もいただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、不快さを軽減できるよう失禁や不潔行為防止に努めている。	リハビリパンツやパッドを使用している、でも、できる限りトイレで気持ちよく排泄ができるように、一人ひとりのリズムを掴み、声かけ等を通して自立支援へと繋げている。排泄支援時には、尊厳を損なわないようにタオルを用いる配慮をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	専属の栄養士と連携し、排便を促す食材や飲料などを提供できるようにしている。また、便秘や排便困難な方へは主治医と連携して個々に対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	開始する時間帯はご本人の希望に合沿うよう毎日の入浴を実施して選択いただいている。また、個々の身体状況に合わせて福祉用具を利用したり、安全確保のため必ず職員が一人見守りを行っている。	お風呂は毎日沸かしており、10時から17時位の間で希望する時間に入浴できる。利用者が入浴を嫌がる時は無理強いせずに、時間や職員をかえて再度声かけしたり、状況によっては足浴や清拭に変えて支援している。また、新たにドライシャンプーも取り入れており、個々の希望等にそった支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分な睡眠が摂れるように日中はできるだけ活動への参加を促しているが、その日や個々の状態によっては参加せずに休息を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋を管理しており、分包時や配薬時には声出しで確認している。また、薬局による薬の配達時には職員が薬剤師から直接説明を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までに獲得してきた事などを尊重し、個々に洗濯物たたみや手芸、園芸、居室の清掃などを行っていただいている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や希望に応じた外出を月に1度企画し、実施している。また、個別の外出に関してもケアプランに挙げたり、その日の体調などにより散歩や屋上での気分転換を図っている。	四季折々の季節感を味わえるように、初詣には神社、花見に近所の公園や桜が有名な公園、飾り山笠見物等に出かけて、支援している。希望すれば通院、コンサートや法事の付き添いなどの日常的な外出支援を行い、できる限りの希望にそうようにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持に関しては、ご本人やご家族の希望にて対応している。使用に関しては、職員の同行や店員の協力を得て対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、ご家族や友人と電話ができるよう支援している。また、手紙や用件の代筆、代弁も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファを設置し、くつろげる空間としている。また、壁には絵画や季節ごとに作成した作品を飾り、カーテンなどは暖色系を使用している。必要な方にはトイレまでの誘導線を床に記している。	リビングの南側一面に大きな窓ガラスがあり、カーテン越しに心地良い明るい光が差し込んでいる。夏は利用者と一緒にゴーヤや花を植えてグリーンカーテンを作り楽しんでいる。壁には利用者の笑顔の写真や季節の作品が飾ってあり居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、テーブルや椅子を配置し交流しやすい空間づくりをしている。また、利用者のご希望や状態に合わせ、テーブルなどの位置を変え、模様替えも行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具類は、できるだけ入居前から使用している馴染んだものの持ち込みをご家族へ依頼し、各々が自由に使用していただいている。また、そういった家具類の搬入を職員が代行することもある。	居室にはベッドとエアコンを用意している。そのほかにも、テレビや家具など以前から使用している本人の気に入った品々を使いやすく配置して、居心地良く暮らせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計で廊下やトイレ、浴室・脱衣室に手摺りを設置している。また、ギャッジベッド8台(うち7台は電動)を設置し、ADLに合わせて使用いただいている。		